

# 2004年度現代GP成果報告書

2005年2月28日  
 関西大学商学部  
 長谷川 伸

## 1. 2004年度の研究内容とコンテンツ制作の計画

私の2004年度の研究内容とコンテンツ制作の計画は以下の通りであった。

(1)研究内容としては、学生参画型すなわち、教員の教育的配慮のもとに学生が主体的に企画・実施・伝承に参画する授業への導入可能性を検証したい(国際投資論, 演習, 専門演習, 演習IIに導入済)。学生参画型授業では、授業時間外においても学生間のやりとりや教員と学生とのやりとりが極めて多い。この点で、CEASは授業時間外の教員・学生間、学生同士のやりとりを容易にし、それを記録・蓄積するので、より効率的な授業運営を可能にし質的变化ももたらすと予想される。一方で、こうした学生間のやりとりが極めて多い授業にCEASを導入することで、CEASの開発の方向も明らかにできるはずである。

(2)コンテンツ制作については、学生参画型授業の場合、アウトプットをコースウェアとして他に広く活用することは難しいが、これまでに学生参画型授業を実践する中で蓄積されてきたツールやノウハウをFAQ形式で蓄積する。

## 2. CEASを活用した授業科目と利用した機能

表1 CEAS利用科目とアクセス状況

科目	対象学部・学年	履修者	CEAS登録者	アクセス回数	授業1回あたりアクセス回数	登録者1人あたりアクセス回数	授業1回・登録者1人あたりアクセス回数
		a	b	c	c/13	c/b	c/b/13
国際投資論	文・商2-4年生	73	42	1,255	96.5	29.9	2.3
演習	商2年次生	5	5	154	11.8	30.8	2.4
専門演習	商3年次生	5	5	394	30.3	78.8	6.1
演習II	商4年次生	10	10	1,223	94.1	122.3	9.4

表2 利用した機能( :よく利用した, :たまに利用した, x :ほとんどあるいは全く利用しなかった)

教材作成および登録		授業補助ツール	
授業資料		お知らせ/メール	
選択式テスト作成	x	FAQ回答登録	
記述式テスト作成	x	アクセスログ	
記号入力式テスト作成	x	担任者専用掲示板	x
レポート課題作成	x	CEAS Community Page	
アンケート作成	x	自発学習促進管理	
教材一括更新		学習進捗管理	x
教材の授業への割付		督促メール送信	x
教材割付		履修環境管理者からの情報	
科目環境設定		システム情報	x
科目独自のページ	x	お知らせ	

授業データ管理		FAQ	
選択式テスト管理	×	BBS	
記述式テスト管理	×	チャット	
記号入力式テスト管理	×	グループフォルダ	
レポート管理	×		
アンケート管理	×		
出席管理			
連結一覧評価表	×		

利用の特徴。テスト機能を使用しなかったのは、いずれの科目におい手も従来からテストを行なっていないからであるし、テストを行なう場合にはわざわざコンピュータ教室に移動しなければならないので仮にテストの必要が生じたとしてもテスト機能の利用は私が担当する科目についてはそぐわないと判断した。

レポート機能を使用しなかったのは以下の理由による。国際投資論の場合、Contribution Work (CW)<sup>1)</sup>と呼ばれるレポート課題の形式と学生のコンピュータスキルの水準、コンピュータ環境の水準からレポート機能を利用しなかった。国際投資論においては毎回のように2004年度の場合12回CWがある。CWは論文や新聞記事からの引用とそれに対する解説で構成されるが、多くの学生は新聞や論文の記事の切り抜きやプリントアウトしたものをCW用紙に貼りつけてしかも手書きで解説をつけて提出する。そのため、これをCEASへレポート課題として提出するためにはスキャナが必要となってしまう、多くの学生にとっては現実的ではなくなってしまう。もちろん、こうした形式の課題であっても全てを最初からデジタルで作成することは技術的には可能だが、それが学生にとって容易でないからこそ用紙に切り抜きなどを貼付けると考えるのが妥当である。いずれにしても、現状ではデジタルで提出しにくい課題であるので、レポート機能を利用しなかった。

演習II・専門演習・演習の場合には、国際投資論とは別の理由でレポート機能を利用しなかった。すなわちレポート課題は多いが、そのほとんど全て他の学生と直ちに共有しなければならない(個人での課題そのものも学生間のコミュニケーション手段として活用する)ので、レポート機能を利用せずに、グループフォルダを利用したからである。もちろん、グループフォルダの場合、レポート機能と異なりオンラインでの採点はできないが、少人数なので手動で行なってもそれほど手間はかからない。

以上に見る利用の特徴が学生のCEASへのアクセスの必要性に影響を与えたと考えられる。特に国際投資論では、CEASを利用しなくても課題を提出することできるので、CEASを利用させしめる強制力は働かない。しかも、学生参画型授業は元来授業外においても学生・教員間と学生間とのやりとりを前提し、やりとりする複数のルートがあるので、CEASを利用しなくても授業外におけるやりとりの多くに参加することができる。授業1回・登録者1人あたりアクセスが2.3回と他の科目と比して低いのはこのことが関係している。一方でその正反対の位置にあるのが、演習IIである。演習IIでは、卒論原稿の提出をCEASのグループフォルダへのアップロードに限定した。したがって、CEASを離離しないことには最大の課題を提出できないことになっていた。授業1回・登録者1人あたりアクセスが9.4回と他の科目と比して高いのはこのためである。

1) CWについては以下のWEBページを参照。関西大学商学部長谷川研究室「Contribution Work / 個人新聞」  
<http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~shin/iiku/iiku20031016.html>。

### 3. CEAS導入の効果(1)：授業プリント管理が効率化し、公開・再利用が容易に

#### 3.1 学生参画型授業における配布プリント管理は困難

学生参画型授業における配布プリントの管理（公開・再利用）は困難である。なぜならば、以下に見る3点の特徴があるからである。

第1に、プリントが比較的多く、しかも学生側も様々な立場からプリントを配布する。学生参画型授業は、学生間、学生・教員間のコミュニケーションを重視している。そうしたコミュニケーション手段の一つとして配布プリントがある。例えば国際投資論では、授業の終わりに学生全員が毎回提出する感想ラベルに教員がコメントをつけた「感想ラベルリプライ」が教員側から配布される。学生側からは、当日授業担当班から「授業企画書」、前回授業担当班から『国際投資論新聞』、他の班から班新聞、参加学生が自由に発行する個人新聞が配布される。2004年度においては、1回平均6.7種類、合計87種類のプリントが配布された。例えば標準的な授業であった第8回（2004年11月19日）では、「国際投資論第7回（2004年11月12日）感想ラベルリプライ」、「国際投資論第8回授業企画書」、『国際投資論新聞』第6号、班新聞2点、個人新聞1点が発行された。学生参画型で行なっている他の科目（演習、専門演習、演習II）も同様である。

第2に、学生の配布プリントのほとんどが手書きである。学生参画型授業では、感想ラベル（これも手書き）を貼り付けて作成するプリント（クラス新聞・班新聞）が多いこと、手書きを上回る自己表現が可能なレベルまでにコンピュータスキルが達していない学生がほとんどであることから、手書きでプリントが多いのである。手書きプリントをWEBに公開する、あるいは手を加えて再利用するためにはスキャナで読み取りデジタル化しなければならない。

第3に、配布プリントの多くが学生の氏名や学籍番号が含まれているので、そのまま参加学生以外に公開するには問題があり、匿名化もコストがかかる。学生が配布するプリントは作成者を明示しなければならないために、発行者（学生）の氏名や学籍番号、電子メールアドレス（時には携帯電話番号）が記されており、しかもその学生の意見や感想が示されている。教員が配布するプリントについてもその全てがそのまま広く公開可能というわけではない。特に上記の「感想ラベルリプライ」は、参加学生全員の感想が実名（氏名と学籍番号）で示されているので、そのまま広く公開することはできない。学生個人を容易に特定しうる情報が随所に示されている配布プリントを匿名化するのも容易ではない。

#### 3.2 CEAS導入前の配布プリントの管理（公開・再利用）

CEAS導入するまでは、配布プリントの管理（公開・再利用）の水準は、ごく一部のものは研究室WEBに公開し、残るほとんどのものは電子ファイルとして保存するにとどまっていた。

CEAS導入直前（2004年度前期）における配布プリントのライフサイクルは以下の通りであった。

## ラテンアメリカ経済論の場合

### [ 授業前 ]

- (1) 教員・学生によるプリント原稿の作成。
- (2) 学生作成プリント原稿の収集（手書きの場合研究室持参，デジタル原稿の場合メール添付）。
- (3) デジタル原稿（ワードなど）のPDF化。
- (4) 手書き原稿の場合スキャナに読み込みPDF化。
- (5) 全てのPDFを結合し一つのファイルとする。
- (6) ファイルサーバ（ネットワークディスク）に保存。
- (7) プリントアウトあるいはコピーし，綴じる。

### [ 授業中・授業後 ]

- (8) 配布。
- (9) 残部を廃棄。

## 演習II・専門演習・演習の場合

### [ 授業前 ]

- (1) 教員・学生によるプリント原稿の作成。
- (2) 学生作成プリント原稿の収集（手書きの場合研究室持参，デジタル原稿の場合メール添付）。
- (3) プリントアウトあるいはコピーし，綴じる。

### [ 授業中・授業後 ]

- (4) 配布。
- (5) デジタル原稿（ワードなど）のPDF化。
- (6) 手書き原稿の場合スキャナに読み込みPDF化。
- (7) 全てのPDFを結合し一つのファイルとする。
- (8) ファイルサーバ（ネットワークディスク）に保存。
- (9) 残部を廃棄。

成績評価基準案や課題用紙（CWシート），「学生による授業評価アンケート」結果など，重要度が高く広く公開可能な資料については，最初からhtmlでファイルを作成するか，PDFに変換して長谷川研究室WEBに掲載していた。しかし，残るプリントについては先述した管理の困難性から，PDFによる保存が精一杯で，公開するまでには至っていなかった。もちろん，匿名化をしなくても，参加学生に限っての公開は問題ない。しかも参加学生に限っての公開は，研究室WEBにおいて参加学生だけが利用できるページを設けることが考えられるし，技術的には従来から可能である。しかし，ページデザイン，IDとパスワードの発行・保管などの管理のためのコストが教員側と学生側ともに増える割にはベネフィットが限られている（授業資料のダウンロードだけしか利用できない）ことから現実的な選択肢ではなかった。

なお，演習・専門演習・演習IIは従来から，配布プリントを参加学生も利用可能なファイルサーバにアップロード（ネットワーク・ディスクに保存）していた。この方法は配信側の敷居は低いが，受信側にとっては敷居が高い。しかも配布資料を得られるにすぎないため，このファイルサーバから学生がダウンロードして閲覧ないし再利用することは稀であった。

### 3.3 CEAS導入後の配布プリントの管理（公開・再利用）

CEAS導入後（2004年度後期）における配布プリントのライフサイクルは以下の通りとなった。

#### 国際投資論の場合

##### [ 授業前 ]

- (1) 教員・学生によるプリント原稿の作成。
- (2) 学生作成プリント原稿の収集（手書きの場合研究室持参，デジタル原稿の場合メール添付）。
- (3) デジタル原稿（ワードなど）のPDF化。
- (4) 手書き原稿の場合スキャナに読み込みPDF化。
- (5) CEAS授業資料登録 授業資料割付（プリント毎に逐次行なう）。
- (6) 全てのPDFを結合し一つのファイルとする。
- (7) ファイルサーバ（ネットワークディスク）に保存。
- (8) プリントアウトあるいはコピーし，綴じる。

##### [ 授業中・授業後 ]

- (9) 配布。
- (10) 残部を廃棄。

#### 演習II・専門演習・演習の場合

##### [ 授業前 ]

- (1) 教員・学生によるプリント原稿の作成。
- (2) 学生作成プリント原稿の収集（手書きの場合研究室持参，デジタル原稿の場合メール添付）。
- (3) プリントアウトあるいはコピーし，綴じる。

##### [ 授業中・授業後 ]

- (4) 配布。
- (5) デジタル原稿（ワードなど）のPDF化。
- (6) 手書き原稿の場合スキャナに読み込みPDF化。
- (7) 全てのPDFを結合し一つのファイルとする。
- (8) ファイルサーバ（ネットワークディスク）に保存。
- (9) CEAS授業資料登録 授業資料割付。
- (10) 残部を廃棄。

上記の通り，国際投資論，演習II・専門演習・演習いずれの場合でも，1工程増加した。しかし，その工程を経た時点で配布プリントが授業に参加する学生に対して公開され，閲覧可能な状態になるので，そのベネフィットは大きい。CEASの導入によってこれまで懸案であった参加学生への公開が実現された。しかも，教員にとっても配布プリントの管理が容易になった。

## 4. CEAS導入の効果(2)：授業外でのやりとりが効率化

### 4.1 授業外での相当量の学習・活動を前提とする学生参画型授業

「教員の教育的配慮のもとに学生が主体的に企画・実施・伝承に参画する」学生参画型授業は、授業外での集団レベル・個人レベルの学習と活動を当然の前提として運営されている。それは毎回のよう個人課題が出されるとともに、学生が中心となって授業を企画・伝承するものだからである。

そのことは履修要項にも明記され、例えば国際投資論では「学生参画型、すなわち教員の教育的配慮のもとに、受講学生が主体的に、授業の企画・実施・伝承に参画する授業をめざします。したがって、毎回の授業への出席はもちろん、授業外での相当量の学習・活動が必要です」としている。しかし、だからといって「授業外での相当量の学習・活動」を覚悟して履修する学生ばかりかというところではない。「空きコマ」を埋めるために履修要項を読まず履修を届け出る学生が少なくないし、履修要項を読んだ学生でも「相当量」を過小評価する場合がほとんどなので、「これほど忙しい・しんどいとは思わなかった」との感想を抱く学生がほとんどであろう。このことは以下に示す「学生による授業評価」アンケート自由記述<sup>2)</sup>からも窺い知ることができる。

国際投資論は学生参画型授業の形のため、企画担当のときはほかに時間を使えないほど忙しかったが、その分やり甲斐や達成感を大きく感じられる授業だった。ほかの授業を受けていると、なんか物足りなさを感じてしまうから、慣れって怖いなぁ（第1部・商学部・3回生・女）

自分の企画の前は大変で辛かったが、他の班の発表はとても面白いしこの授業形態はとても良いものだと思う。ただ他の授業までこの授業形態だったら大変だ（第1部・商学部・3回生・男）

自ら勉強する気がある生徒には非常に興味深い授業だと思う。ただ、発表までにかなりの時間がかかるのでそれなりの覚悟をしないととらない方がいいと思う（第2部・商学部・4回生・男）

授業外の学習・活動のうち、特に時間がかかり学生がストレスを感じているのは、授業の企画活動、とりわけ企画会議であろう。企画会議が学生にとって時間がかかりストレスを感じる理由は5つあると考える。第1に、90分の授業を企画・計画した経験はもちろんのこと、企画・計画立案一般についても経験が乏しく、企画立案能力が開発されていない学生がほとんどである。第2に、毎回の授業はテキスト当該章のエッセンスをクラスで共有することをめざし、授業の進め方について担当班内で合意を形成しなければならない。しかし、学生の多くは合意形成に不慣れである。批判することや対立することを嫌って、他のメンバーの意見をそのまま鵜呑みにしてしまうか、逆に他のメンバーからの批判に耳を貸さず自らの意見に固執してしまう学生が多い。ディスカッションで互いに認識を進展させ、高いレベルでの合意をつくりだす経験に乏しいのである。このために、企画会議が長時間化する割には成果（合意形成）が得られにくく、学生にとってストレスとなっている現実がある。

第3に、企画会議に向けての準備をしないまま、しかもアジェンダや所要時間を設定せずに「とりあえず集

2) 関西大学商学部長谷川研究室「2003年度国際投資論（中南米経済論）」「学生による授業評価」アンケート自由記述一覧」<http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~shin/iiku/iiku2003voice.html>。

まる」「決まるまで続ける」式に企画会議を行なうことが少なくないことが挙げられる。その結果、内容の薄い企画会議が延々と続くことになる。「集まる」ことや「決まるまで続ける」ことはやる気の現れであるだけに、結果が出ないことは相当のストレスになっていると考えられる<sup>3)</sup>。

第4に、学生の多くがノートテイキングのスキルレベルが低いために、ディスカッションが堂々巡りするか、迷走してしまうことが挙げられる。板書をそのまま書き写すことはできても、論点を書き留め、ディスカッションの流れを図示し整理するレベルに達している学生は少ない。そのために、わかったことや合意したことをいちいち確認しながらディスカッションを進める習慣がほとんどない。そのために、堂々巡りに陥るか迷走してしまって会議が前に進まずに、時間だけが過ぎていくことになる。

第5に、これは国際投資論・ラテンアメリカ経済論に固有の理由だが、授業担当班の構成メンバーの日程調整が困難であることが挙げられる。授業担当班は、学年も学部も異なる学生4-6名で構成されることが多い。こうしたメンバー全員が集まることができる時間帯を探し出すのは容易ではないので、全員揃わずに企画会議をやらざるを得なくなったり、授業の合間を縫って細切れで慌ただしく会議をやらざるを得ない。そのために合意形成は一層困難になり、時間がかかることになる。

こうした問題を孕みながらも、授業担当班の企画会議は事実上フェイス・トゥ・フェイスで行なう以外になかった。もちろん、チャットシステムや掲示板、メーリングリストで行なうことは可能であったが、利用者の利用コスト（ID・パスワード・アドレスの保管）や管理者の管理コスト（メーリングリストのセットアップとメンテナンス）の存在と参加学生のコンピュータスキルの水準を考えると現実的ではなかった。企画会議は「集まる」他はなかったのである。

#### 4.2 CEAS導入後、授業外でのやりとり（企画活動）が効率化

CEASを導入することにより、従来ほとんど全てフェイス・トゥ・フェイスで行なわれていた授業の企画活動（企画会議）が、一部CEASのチャット・掲示板で行なわれるようになり、学生側としても教員側としても効率化（負担軽減）された。

具体的には、いくつかの授業担当班において、企画会議がCEASのチャットシステムで行なわれたことが確認されている。資料1にその代表的な事例を示す。資料1に示したやりとりは、11月7日深夜、午前1時前から午前3時ごろまで行なわれた国際投資論のチャット（企画会議）のうちの一部（約35分）である。この時のチャットは、テキスト第7章「国際経営組織と所有政策」を扱う第9回（11月26日）授業を担当する班によるものであり、Contribution Work (CW)と呼んでいる授業担当班が学生に出す課題設定を行なうことを目的としていた。班メンバー4名のうち3名が参加し、教員も参加してほしいとの担当班からの要請に基づき、教員も参加している。このやりとりからはメンバーがテキストを片手にパソコンのディスプレイに向かう姿が浮かんでくる。やりとりの中で気づき生まれ、気持ちの高まりとともに合意が形成されていく様子が見える。

もちろん、この事例はチャットによって企画会議が成功した例であり、チャットによって企画会議を試みたものの、キーボード入力に不慣れなメンバーが議論に追従できなかつたり、脱線や悪のりしたり、当該班ではないメンバーが参入して攪乱させられたりするなどして、失敗した例もある。ただし、その場合でも授

---

3) もちろん、授業についての最終責任は教員が負わなければならない。企画会議そのものに教員は参加しないが、教員は授業担当班との打ち合わせを企画会議の結果を踏まえて行ない、1回1回の授業については担当班と教員とが共同で責任を負う形になる。

業外での授業参加学生同士のやりとりにはなっているもので、それはそれで授業にとって価値がある。

資料2は、CEASの掲示板への書き込みによって学生と教員とのやりとりが行なわれた事例である。これは、第11回（12月10日）授業を担当する班メンバーと教員との間で、CWを巡っての11月24日から26日にかけて行なわれたやりとりを示す。この担当班は企画会議によって決めたCW課題を掲示板に書き込むことによって教員に承認を求めている。これに対して教員が問題点を指摘している。それを受けて、他の班メンバーと相談しながら課題の修正を行なっている。学生Bはこのやりとりの中でCEASが便利であることに気づいている。

企画会議がフェイス・トゥ・フェイスからチャット・掲示板によって行なわれることによってどの問題を解決し、どのような効果をもたらしたか。第1に、夜間ないし深夜でも企画会議ができることにより、日程調整が容易になったと考えられる。しかも、教員が企画会議に参加することが容易になり、従来の企画会議終了後研究室に向いて教員に報告・相談するプロセスを省くことにもなった。つまり、先述の第5の問題を解決することが示されたのである。第2に、文字として可視化され記録に残るので、ある程度ノートテイキングと同じ効果が得られたと考えられる。これは先述の第4の問題の解決手段として機能する。第3に、フェイス・トゥ・フェイスではできなかった発言ややりとりが可能になり、それによりコミュニケーションの幅を広げることになったと考えられる。

CEASを利用した学生はこうした効果を実感している。国際投資論の課題(CW)「授業運営で学んだこと」に対して、ある学生は授業運営上「あらゆるムダを省く」としてCEASを取り上げた（資料3）。

## 5. アクセスログの分析

### 5.1 国際投資論

CEAS利用についてのアナウンスをした第1回（10月1日）から8日後（第2回授業の翌日）に初めてのアクセスがあり、日別で見ると10月29日に、週別で見ると10月25日から31日までの週にピークを迎えている。冬休みなどの授業が行われない期間はアクセスが少ない。

曜日別アクセス回数を見ると授業当日（金曜日）が最も多く、次に授業前々日（水曜日）、授業前日（木曜日）と続く。時間帯別にアクセス回数を見ると、22時30分から23時までにピークを迎えている。

アクセス回数が多い上位6名の学生（CEAS登録者数42名14.3%）で全体の5割（49.4%）のアクセス回数を占めている。

### 5.2 演習

CEAS利用についてのアナウンスをした第1回（10月1日）から12日後（10月13日）に初めてのアクセスがあり、日別で見ると10月20日に、週別で見ると10月18日から24日までの週にピークを迎えている。冬休みなどの授業が行われない期間はアクセスが少ない。

曜日別アクセス回数を見ると授業前日（水曜日）が最も多く、次に授業前々日（火曜日）、日曜日と続く。時間帯別にアクセス回数を見ると、11時30分から正午12時までにピークを迎えている。

アクセス回数が多い上位2名の学生（CEAS登録者数5名40.0%）で全体の6割（60.4%）のアクセス回数を占めている。



### 5.3 専門演習

CEAS利用についてのアナウンスをした第1回（10月1日）から10日後（10月11日）に初めてのアクセスがあり、日別で見ると10月27日に、週別で見ると10月25日から31日までの週にピークを迎えている。冬休みなどの授業が行われない期間はアクセスが少ない。

曜日別アクセス回数を見ると授業前日（水曜日）が最も多く、次に授業当日（木曜日）、授業前々日（火曜日）と続く。時間帯別にアクセス回数を見ると、23時30分から0時30分までにピークを迎えている。

アクセス回数が多い上位2名の学生（CEAS登録者数5名40.0%）で全体の5割（52.3%）のアクセス回数を占めている。

### 5.4 演習II

CEAS利用についてのアナウンスをした第1回（9月30日）から8日後（第2回授業の翌日）に初めてのアクセスがあり、日別で見ると1月8日（卒業論文提出期間初日）に、週別で見ると1月3日から9日までの週にピークを迎えている。卒業論文提出直前のためであろう冬休みなどの授業が行われない期間でもアクセスが多い。

曜日別アクセス回数を見ると授業前日（水曜日）が最も多く、次に授業前々日（火曜日）、授業当日（木曜日）と続く。時間帯別にアクセス回数を見ると、15時から15時30分までにピークを迎えている。

アクセス回数が多い上位4名の学生（CEAS登録者数10名40.0%）で全体の5割（54.2%）のアクセス回数を占めている。

## 6. 今後の課題

### 6.1 コンテンツとしてのFAQの充実

先述したように学生参画型授業の場合、配布プリントはそのままでは広く公開することは困難である。なおかつ、文脈に深く埋め込まれているので だからこそその場での学習効果は高いのだが 汎用性が低い。したがって配布プリントはコースウェアとして他に広く公開・活用することは難しい。これまでに学生参画型授業を実践する中で蓄積されてきたツールやノウハウをFAQ形式で蓄積することは可能であり、本年度もこれを一つの目的とした。しかし本年度はCEASを運用することに資源を集中したためと学生からのFAQを通じての質問が非常に少なかったために、十分な成果が得られていない。コンテンツとしてのFAQの充実はこれからの課題である。

### 6.2 国際投資論：CEAS登録率の引き上げと利用開始の早期化

国際投資論に関して、CEAS登録率はほぼ出席者数に見合うレベルであるが、学生毎のアクセスに着目すると、1回から215回までと利用頻度にあまりに大きな開きがあり、なおかつアナウンスから1ヶ月後の11月に15名が、2ヶ月後の12月に4名が初めてアクセスしており、利用期間にもあまりに大きな開きがある。したがって、CEAS登録率の引き上げと利用開始の早期化のためにアナウンスを徹底することやCEASへの誘導策を設けるなどの対策を講じたい。

資料1 CEASチャット例（国際投資論）

[A]： 合併はそれぞれのパートナーが資本を持ち寄って会社作るんですね。 [04/11/07 01:43:47]

[ははは]： その通り。双方が出資するわけです。 [04/11/07 01:44:32]

[A]： そうです(><)だんだん増やして強くなっていくイメージでした。ややこしいこと言いました。ゴメリンコ  
[04/11/07 01:45:47]

[B]： 私も合併についてあやふやでした。なんとなくこんな感じかなで話を進めていました。CWでも合併会社とはどう  
いうことを言うのかを聞きましょうよ。 [04/11/07 01:47:43]

[ははは]： 日本企業はなぜ海外で現地企業との合併企業を設立するのだろう。 [04/11/07 01:50:14]

[A]： 合併って形で進出せざるを得ないから？ [04/11/07 01:52:55]

[C]： さっきも話で出たみたいに販売網、現地の人との意思の疎通などが図りやすいからでしょうか？ [04/11/07  
01:54:33]

[A]： なるほど！制限とかあったみたいし。 [04/11/07 01:56:01]

[B]： 政府の政策で、中国だと税金の面とかが優遇されて有利らしいです。 [04/11/07 01:56:35]

[D]： なるほどー。現地での経営がスムーズになるんですね。 [04/11/07 01:56:48]

[A]： 政府の政策って対外開放政策のこと？ [04/11/07 01:58:32]

[B]： 授業でそう触れただけなので、詳しくは説明できないんですけど、6限のノートに書いてありました。 [04/11/07  
02:00:55]

[A]： 今は規制緩和も進んで合併企業も最近では減ってるみたいね。進出は簡単でも撤退しにくいらしいよ。  
[04/11/07 02:02:58]

[A]： 合併企業！いいんじゃない？ [04/11/07 02:07:56]

[D]： 海外生産や直接輸出による経験で海外で事業するのに現地の助けを借りなくてもいいようになったのも合併企  
業が減った理由の一つみたいですね。 [04/11/07 02:09:21]

[A]： そうなんや(^\_^)おもしろいね？ [04/11/07 02:13:35]

[B]： 合併いいですね。このやり取りを保存しておきたいけど、仕方が分からない！。 [04/11/07 02:14:26]

[C]： 教科書に東レの例が載ってるけど、なんか他の企業も調べてみたい気がするかも [04/11/07 02:16:14]

[B]： CWで実際の例を挙げてもらいましょう。 [04/11/07 02:18:06]

[D]： 合併について興味わいてきました！ [04/11/07 02:18:10]

[A]： 調べてみたい？じゃCWそれにしたらいいくない？！ [04/11/07 02:18:19]

（註）2004年11月7日深夜，1時43分47秒から2時18分19秒までのログを匿名にし，順番を逆（時系列）にしている。このチャットシステムを使つての企画班の打ち合わせは1時前に始まり3時過ぎに終わっている。

資料2 CEAS掲示板への書き込み例（国際投資論）

-----  
(1043)11月26日発表のCWの課題について A (2004-11-24 15:36:31)

CWのテーマを『なぜ日本企業は、グローバル化したのか?』にしたいのですが、いかがですか?  
先生、コメント下さい。

-----  
(1046)Re:11月26日発表のCWの課題について 長谷川伸 (2004-11-24 23:32:36)

(1)そもそもこのCWは何をねらいとしているのでしょうか。新聞にも解説が書いていないのでわかりません。

(2)グローバル化とはなんなのでしょうか。国際化、多国籍化とはどう違うのでしょうか(あえてグローバル化とするいみはどこにあるのでしょうか)。何をもちてグローバル化とするのでしょうか。以上の点について、共通理解がないままに「なぜグローバル化したのか」を問うても期待した結果が帰ってこないのではないですか。

(3)本日受け取った新聞については、解説文も補足説明もついていません。これまでに発行されたCW課題を提示するチーム新聞としてはお粗末過ぎます。最後の企画班ですから最高のものをつくってください。

-----  
(1047)Re:11月26日発表のCWの課題について A (2004-11-25 01:35:16)

確かにグローバル化というと「経済、環境などさまざまな分野で、人や企業の活動が従来の枠組みを超えて地球規模で展開すること」みたいな分りにくい表現になってしまうので、CWの課題を「何故、日本の企業は輸出中心だった経営戦略を現地生産に切り換えなければならなかったのか?」に変更したいと思います。

10班は、教科書の10章「グローバル経営」を読んだ結果、「日本企業がその時代ごとに輸出や現地生産など時代や経営環境に応じて経営戦略を変化させている」ことが分かったので、日本企業の経営戦略史みたいな感じで時代ごとに変化してきた戦略の流れを発表したいと思いました。

そこでCWには、日本企業の経営戦略が輸出から現地生産へ大きく変化することになった理由を具体的な事例を挙げて調べてもらうことで、日本企業の経営戦略の変遷がより分かり易くなり、発表に利用し易い事例が出て来るのではないかといいねらいがあります。

少し、私個人で解釈をゆがめてしまっている部分があると思いますので、今日もう一度班のメンバーと相談して新聞を作り直したいと思います。

もう講義の前日ですから私達が新聞を刷って行くことになると思うのですが、大体何枚くらい刷って行けばいいんでしょうか?

先生、コメント下さい。

-----  
(1049)Re:11月26日発表のCWの課題について 長谷川伸 (2004-11-25 01:57:29)

(1)「何故、日本の企業は輸出中心だった経営戦略を現地生産に切り換えなければならなかったのか?」という問いは第5章のものです。すでに明らかにされていることではありませんか。

(2)「日本企業がその時代ごとに輸出や現地生産など時代や経営環境に応じて経営戦略を変化させている」こと自体は第3章や第4章で述べられていることですが、今やこのクラスにとって当たり前のことになっています。「そんなこともうわかってい」と言われるのがオチです。

(3)この第10章のエッセンスは何ですか。最後だからまとめが求められるのは当然ですが、最初からまとめだけやればよいというものでもありません。第10章のエッセンスを通じてまとめをしてください。

チーム新聞は45部あればOKです。

-----  
(1052)Re:11月26日発表のCWの課題について B (2004-11-25 19:11:41)

初めまして、Bです。CEASの入り方を今日知って入りました。よろしくお願いします。

10章の大事な所は、「グローバル経営とは多国籍企業の優位性を生かした経営」という所で、これを発表でクラスの人にわかってもらいたいと、私は思いました。  
今日集まって話をして、「多国籍企業が必ずしもグローバル経営をしているわけではない」ということがわかりました。おそらくこれはクラスの人にも曖昧だと思います。なので図で示して「国際化はこういう図にできて、グローバル化とはこういう図です。」という絵で補足をして、「なぜ日本企業は、グローバル化したのか？」というCWにしたいです。  
これをCWにすることによって「グローバル経営」の基本がわかってもらえるといいと思います。  
先生コメントをお願いします！

-----  
(1054)Re:11月26日発表のCWの課題について 長谷川伸 (2004-11-25 21:26:05)

>なので図で示して「国際化はこういう図にでき  
>て、グローバル化とはこういう図です。」とい  
>う絵で補足をして、「なぜ日本企業は、グロー  
>バル化したのか？」というCWにしたいです。

日本企業は全部グローバル化したわけではないですよ。ならば：

グローバル化した日本企業を1社取り上げ、その企業がなぜグローバル化したのかを説明してください。

にしたらどうですか。国際化・グローバル化の図を板書するのではなく、チーム新聞に解説文とともに書き込んでください。

-----  
(1055)Re:11月26日発表のCWの課題について B (2004-11-25 22:12:56)

返事ありがとうございます。  
先生があげて下さったのにしますね。  
図も新聞に書き込みます。  
明日までがんばります。

CEASのよさに今になって気付きました。  
これからはもっと活用しようと思いました。

-----  
(1056)Re:11月26日発表のCWの課題について 長谷川伸 (2004-11-26 00:23:50)

>先生があげて下さったのにしますね。  
>図も新聞に書き込みます。  
>明日までがんばります。

時間がありませんが、お願いします。

>CEASのよさに今になって気付きました。  
>これからはもっと活用しようと思いました。

是非これからも活用してください。

-----  
(註)担当教員以外の書き込みは匿名にし、順番を逆(時系列)にし、明らかな誤字脱字は修正した。ここでは、第11回(12月10日)の授業を担当する班と教員とのCWを巡ってのやりとりを示す。

Contribution Work Sheet

□(1)学籍番号 商02 □(2)氏名 □(3)E-mail

□(4)作成日付 2004年12月4日 □(5)提出日付 2004年12月10日

□(6)課題名 ② 授業運営の中で学んだこと。

□引用がされている □引用出所の明示がされている □コメントがある ←提出前にチェックしてください。

※鉛筆不可。新聞記事などを貼り付けても可。そのままでは用紙に納まりきれない場合、抜き書きや縮小コピーによって用紙1枚に納めること(この用紙の裏を使用しても可)。

(854)Re:8班のCWのテーマについて。長谷川伸 (2004-10-26 20:13:47)

(1)CW課題は、課題文を見ただけで課題が誤解なく遂行できるようにしてください。おそらく「海外工場における、日本の生産システムにはどのようなものがあるか」が課題文でしょうが、これではどのように課題を遂行したらいいわかりません。少なくとも「具体的に企業例を挙げて」を入れないとやりにくい。解説がなくても誤解が生じないように、課題文そのものをこたわって作り込むことをめざしてください。

(2)国際投資論を学ぼうとしている学生の水準に合わせた課題を設定してください。「日本の生産システム」とは何かかわかっていない状態で、その「日本の生産システムにはどのようなものがあるか」と日本の生産システムのバリエーションを調べてくることになっています。「そもそも日本の生産システムってなんや?」となってしまうか、あるいは日本企業が工場で行っている方法ならなんでも「日本の生産システム」だろうと考えて調べてくるかどちらかでしょう。いずれにしても企画班が意図した結果は得られないし、予習としても効果的ではありません。どうでしょうか。

(848)8班のCWのテーマについて。商 02- (2004-10-26 14:11:37)

8班は11月12日に5章海外生産を担当します。次回10月29日にCWのテーマを発表します。現在CWのテーマを「海外工場における、日本の生産システムにはどのようなものがあるか」とし、具体的に企業例を挙げて調べてもらいたいと考えています。

このテーマを選んだ理由は、①教科書にある日本の生産システムがおもしろかった、②日本の生産システムが海外で高く評価されていることがうれしく、教科書以外にどのようなものがあるか知りたい、③中国テクノセンターに行った際、日本の生産システムが行われているのを実際に見て、身近に感じている、などです。

このテーマについてアドバイスをお願いします。

② クラス全員が意見交換できる場になる。

→わざわざ授業中に時間をとらなくても、掲示板やチャットという場で意見交換ができる。情報交換(質問、授業評価について、飲み会のアウスなど)が活性化される。

③ 持っていない資料を簡単に手に入れることができる。データフォルダを使って他の人が持っているCWを見ることことができる。

→集まらないとできなかった企画も、集まらずにできるようになる。

裏につく... →

授業担当班からのコメント (コメンテーター署名: )

私もCEASがなかったら今の私はありません。何にしてもCEASを活用できないのを考えるよりになりますよね。学生参加型授業では必要不可欠だと思います。私たちもよくにぞきで実感するからかもしれません。率直な作成上かなり役に立ちますよ。どんどん活用しましょう。

長谷川 使用欄

A

企画における CEASの活用

後期からCEASが導入され、私はたびたび活用してきたが、その中でいくつかのCEASの利点を発見した。

① 掲示板やチャットを利用することで、班員全員や、先生と直接会わなくても企画ができる。

→それぞれの都合に合わせても企画ができ、「文字」にすることで自分が「何を言いたいのか」をまとめることができる。時間のムダを省略できる。

↓ さらに

掲示板に残っている言記録を、次の企画に生かすことができる。

おもしろいのに使わなかった話を再利用できるかもしれないし、一度注意された失敗をくり返さないためにも役立つ。先生も二度手間が減る。

これらのことから、「CEASはあらゆるムダを省くことができる」というのが分かる。

特に私達は9人で企画をしたのでCEASはとても便利だった。

今後ともCEASを有効活用していきたい。

※新聞も、企画の再利用や失敗をくり返さないという点においては有効だが、CEASの方がよりリアルだと思った。